

大阪大谷大学 アセスメントプラン（学修成果の評価に関する方針）

大阪大谷大学では、「報恩感謝」を建学の精神に、「自立・共生・創造」を教育理念に掲げ、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」において、育成する人材の資質・能力を以下のとおり定めています。

- ・報恩感謝の心と幅広い教養
- ・専門的な知識・技能
- ・問題解決能力
- ・自律的・主体的・共感的態度
- ・実践力

これに基づき、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を定めて教育課程を体系的に編成し、運用しています。そして「入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」を定めて入学者選抜を行なっています。

教育の内部質保証が行われるためには、種々のアセスメントが必要であり、本プランでは、アセスメントの内容・方法・活用について定めています。本プランに基づいて、機関レベル・教育課程（学部学科）レベル・科目レベルの三層で学修成果の把握と可視化を行い、教育課程や教育方法の見直し、教育・学修支援体制の充実、3つのポリシーの検証を図ります。

1. 検証の概要

(1) 機関（大学全体）レベル

機関レベルでは、ディプロマ・ポリシーの到達度、就職・進学状況などを把握し、大学における教学体制の適切性を内部質保証推進委員会において検証します。検証結果は、大学全体の現状の把握とともに、教育制度の改善に活用されます。

(2) 教育課程（学部・学科）レベル

教育課程レベルでは、学生対象の各種調査（入学時調査、学修行動調査、卒業時調査）のほか、外部アセスメントテスト、GPA、単位取得状況、資格・免許取得状況、卒業研究・卒業論文をもとにしたディプロマ・ポリシーの達成度の測定を行い、個人単位および学部・学科単位での学修成果の把握を行います。その結果は各学部の教授会において教育課程および教育方法の検証に活用されるとともに、アドバイザー教員等による各学生への個別学修支援に役立てられます。

(3) 科目レベル

科目レベルでは、学生による授業評価アンケート、教員相互のシラバスのチェック、成績評価の妥当性の確認を通して、授業の質や授業方法の適切性、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの整合性を検証します。その結果は、授業の質向上に活用されます。

2. 具体的な検証方法

| | 入学時 | 在学时 | 卒業時 | 卒業後 |
|---------|---------------|--|--|--------------|
| 機関レベル | 入学試験 新入生調査 | GPA 単位修得状況 学修行動調査 課外活動状況 退学率・休学率・留年率 外部アセスメントテスト | GPA 卒業研究・卒業論文 卒業時調査 学位授与数 資格・免許取得状況 就職率・進学率 | 卒業生・企業 調査 |
| 教育課程レベル | 入学試験 新入生調査 | GPA 単位取得状況 学修行動調査 授業評価アンケート 課外活動状況 退学率・休学率・留年率 外部アセスメントテスト | GPA 卒業研究・卒業論文 卒業時調査 学位授与数 資格・免許取得状況 就職率・進学率 | 卒業生・企業 調査 |
| 科目レベル | | 成績評価 授業評価アンケート シラバスチェック | | |

3. 各評価の方法と活用

| 評価 | 評価方法と活用 |
|---------------------------------------|---|
| 入学試験 | 各入試種別において定められた入学試験を実施し、アドミッション・ポリシーに適合する学生の受け入れを行う。 |
| 新入生調査 | 新入生の志向を把握するための調査を行い、入試広報活動、教育課程および支援体制を改善する。 |
| GPA 単位取得状況 学位授与数 退学率・休学率・留年率 | 年度ごとにこれらの状況を把握し、各学科において、アドバイザー教員による個別学習支援を行うほか、教育課程を改善し、大学として教育体制を充実する。 |
| 成績評価 | 各授業科目における成績評価の妥当性を検証し、成績評価の信頼性を担保するとともに、授業担当者による教育改善、学科における教育課程の改善を行う。 |
| 授業評価アンケート | 授業担当者による授業改善、学科による教育課程の改善を行う。 |

| | |
|-------------|---|
| シラバスチェック | 授業内容およびディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの整合性を検証し、授業担当者による授業改善を図る。 |
| 学修行動調査 | 学生に対して日常的な学修状況のほか、学修成果や成長実感等を測るための調査を行い、全学的な教育体制および教育課程を改善するとともに、学生への個別学修支援を行う。 |
| 課外活動状況 | 課外活動の状況を把握し、学生への学修指導等に役立てる。 |
| 外部アセスメントテスト | 1年次および3年次（薬学部は5年次）における汎用的能力の測定する外部テストを学生が受験し、学生は自らの能力の客観的評価を認識するとともに、学科において能力の伸長を検証することで、教育方法および教育課程の改善を行う。 |
| 卒業研究・卒業論文 | 各学生の卒業研究・卒業論文を評価し、学修成果を把握するとともに、教育課程の改善のほか、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの検証をする。 |
| 卒業時調査 | 学生に対して学修成果や教学体制の満足度等を測るための調査を行い、全学的な教育体制および教育課程を改善する。 |
| 資格・免許取得状況 | 卒業時の資格・免許取得状況を把握し、その支援体制および教育課程を改善する。 |
| 就職率・進学率 | キャリアセンターにおいて就職・進学状況の調査を行い、学科および大学において、キャリア支援体制や教育課程を改善する。 |
| 卒業生調査 | 卒業後3～5年を経過した卒業生を対象に、本学における学修についての意識調査を行い、キャリア支援体制および教育課程を改善する。 |
| 企業調査 | 卒業生が就職している企業を対象に調査を行い、キャリア支援体制および教育課程を改善する。 |